

機関番号：34430

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20320042

研究課題名（和文） 戦前期〈外地〉刊行の日本文学資料に関する基礎的・総合的研究

研究課題名（英文） A Basic and Comprehensive Approach to the Literary Works in Japanese
Published in the Overseas Territories of Japan before the War

研究代表者

木村 一信 (KIMURA KAZUAKI)

プール学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号：20105365

研究成果の概要（和文）：研究成果として、戦前期〈外地〉刊行の日本文学資料のデータ構築のうち、台湾に関してはかなりのデータ収集が達成できた。これは、平成24年初めに刊行予定の今科研メンバーを中心とした論文集『〈外地〉文学への射程(仮題)』（双文社出版・刊）の中に、資料篇として収録する予定となっている。また、この間、後に掲げるような科研メンバーによる単行本の刊行、シンポジウム、セミナーなどを行い、研究の深化と広がりを得たのが成果とみなされる。

研究成果の概要（英文）：As the result of our study, among the collected date of the literary works and materials in Japanese which were published in the overseas territories of Japan before the War, Taiwan's have been fairly collected. These results will appear in the material section of an essay called '外地文学への射程', or 'The Range over the Literature from Overseas Territories(tentative title)'. (published by Sobunsha Ltd), which are scheduled to be published at the beginning of the 24th Year of Heisei(2012). In the meanwhile we've published a book by the members of our Kaken group (listed below) and held a symposium and a workshop, which I think have deepened and broadened our study. We are sure these will be regarded as good results.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2009年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2010年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：〈外地〉日本語文学、〈外地版〉刊行日本語図書、〈外地版〉書籍目録、植民地支配、統治地

1. 研究開始当初の背景

本研究は、アジア太平洋戦争以前に、〈外地〉とよばれていた主として、台湾・朝鮮・満州それに戦時下の軍政・統治地などで繰り上げられた日本語による文学活動を探ると

ころから始められた。その運動の担い手は、日本人はもとより現地の人々も含められる。やがて、その土地でのみ出版される書籍の数が増えていき、当時〈内地〉とよばれていた現在の日本国内にも流通するようになった。

私達は、現地で発行された日本語による文学関連書籍のデータ化を試みたのは、それらの全容が不明であり、出版点数、内容などが十分に資料として把握されていないことに気づいたからである。日本の近現代文学史の一隅を占めるこれらの〈外地〉刊行の日本語文学書籍のデータ化は、その全容解明にはかなりの時間と人力が必要であるにせよ、まず一歩から始めなければならないと判断した。研究に着手した背景は以上の通りである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大正期から昭和 20 年の終戦時までのアジア（中国・台湾・朝鮮・東南アジア地域）における日本語による文学資料、特に現地で発行された図書を中心にその基礎的・総合的な研究を目指すと共に、そうした書籍類のデータベース化を企図したものである。つまり、私たちの研究グループは、アジア太平洋戦前期に〈外地〉と呼ばれていた地域での文学活動の実態を明らかにすることを最終的な目標にしているが、その基礎的作業としての資料の調査、収集、確定を目論んだのである。現地の国立図書館・資料館、個人記念文学館、大学付属図書館、また、日本国内の国会図書館他における調査を行うものであった。それらは、膨大な量に上り、内容の確認、必要事項の、コピー、メモ取りなど人手と時間、エネルギーを要するが、地道な作業を重ねることでまだ十分に研究が積み重ねられていない分野における解明にいささかなりとも寄与することを目的とした。

3. 研究の方法

上記のような研究目標を実現するために、これまで南方徴用作家の研究、〈外地〉文学研究、アジアにおける日本文学研究、また、文献資料学などを手掛けてきた研究者を中心としてメンバーを構成した。まず、日本の国会図書館にて研究対象とする地域で発行されたいわゆる現地版文学関連図書の所蔵を調べ、一方、わかる限りの現地刊行図書のリストアップを試みた。それに基づき、国内で目にする事のかなわなかった図書の調査を意図して、東アジアの有力図書館での調査に出かけた。図書館によっては、資料の閲覧、調査に制限を加えるところ（特に、中国）があり、一方、きわめて協力的なところ（特に、台湾）もあって、地域による調査の進展に差異が生じることとなった。

作業の具体的なこととしては、現地版文学関連図書を実見し、その目次、書き出し、奥付などをコピー、もしくはメモをし、重要と思われる部分のコピー、もしくはメモを取った。それを作者毎に分類をしたり、文学活動グループ毎にまとめたりし、年代順にデータ

化をしていった。約 30 年間のデータであるが、台湾地域については、ほぼ見通しがついたと言っているであろう。

4. 研究成果

研究成果としては、以下に挙げる研究会や国際学術シンポジウムの開催、また、各メンバーの論文発表などがあるが、さらに平成 24 年に刊行予定の科研メンバーを中心とした論文集（『外地文学への射程（仮題）』）があり、そこに調査、収集したデータも収録する予定である。

【主な研究会の開催】

第一回 2008 年 12 月 6 日

二人の科研メンバー（土屋忍、神谷忠孝）による研究発表と質疑応答。於：立命館大学

第二回 2009 年 10 月 25 日

二人の科研メンバー（竹松良明、土屋忍）による研究発表と質疑応答。於：大阪梅田 O S ホテル会議室

第三回 2009 年 12 月 20 日

韓国・高麗大学校の鄭炳浩氏の講演、ならびに楠井清文（立命館大学・ポスドク）の研究発表。於：東京・アルカディア市ヶ谷

第四回 2010 年 3 月 6 日

三人の科研メンバー（竹松良明、土屋忍、木村一信）による研究発表と調査方法についての打ち合わせを行った。於：立命館大学

第五回 2010 年 7 月 25 日

台湾の西川満文庫調査に関わっての打ち合わせ、ならびに論集刊行についての協議を行った。於：立命館大学

【国際学術シンポジウム】

第一回 2010 年 10 月 8 日

韓国・高麗大学校日本研究センター主催「韓・中・日 国際学術シンポジウム 帝国日本の移動と東アジア植民地文学」に、科研メンバーから池内輝雄、木村一信が参加し、パネリストを務めた。於：韓国・漢陽女子大学校

第二回 2011 年 1 月 5 日

日本、韓国、インドネシアの日本文学研究者が集まり、本科研主催による国際学術シンポジウム「〈外地〉日本語文学の諸相」を開催した。科研メンバー 7 名が参加し、研究発表やコメンテーターを務めた。於：国立インドネシア大学、人文学部

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

2008 年度(計 5 件)

- ① 曾根博義 「文芸評論と大衆」『文学』9-2、査読なし、P.112~124
- ② 曾根博義 「日本近代文学における山本有三の位置」『国文学解釈と鑑賞』73-6、査読なし、P.18~24
- ③ 曾根博義 「大槻憲二と伊藤整とアナキズム」『トスキナア』8、査読なし、P. 3~9
- ④ 竹松良明 「阿部知二『愛の人』『うつせみ』の実質」『阿部知二研究』15、査読あり、P. 16~24
- ⑤ 奥出 健 「事变下・陸軍従軍班文士の見たもの」『近代文学』2、査読あり P. 56~72

2009 年度(計 5 件)

- ① 木村一信 「湯浅克衛と中島敦と」『韓流百年の日本語文学』(木村一信・崔在 Chol 共編著) 所収、査読なし、P. 121~140
- ② 池内輝雄 「文学に見るモダニテイの光と影」『悲劇喜劇』7、査読なし、P. 27~29
- ③ 神谷忠孝 「朝鮮版『緑旗』について」『北海道文教大学論集』11、査読あり、P. 31~41
- ④ 竹松良明 「阿部知二の<上海もの>の色調」『阿部知二研究』16、査読あり、P. 14~22
- ⑤ 奥出 健 「戦時下台湾の愛」『湘南短期大学紀要』20、査読あり、P. 137~142

2010 年度(計 9 件)

- ① 木村一信 「『死の花』のインドネシア語版刊行とその記念セミナーについて」『阿部知二研究』17、査読あり、P. 51~53
- ② 木村一信 「南方徴用作家の言説」『日本研究』15、査読あり、P. 51~64
- ③ 池内輝雄 「『満州』表象と日本文壇」『日本研究』15、査読あり、P. 101~126
- ④ 曾根博義 「井上靖と戦争」『語文』136、査読あり、P. 126~135
- ⑤ 神谷忠孝 「横光利一『春は馬車に乗って』」『国文学解釈と鑑賞』75-6、査読なし、P. 61~68
- ⑥ 神谷忠孝 「日露戦争と文学」『社会文学』32、査読あり、P. 98~102
- ⑦ 神谷忠孝 「権太アイヌの悲劇」『植民

地文化研究』9、査読あり、P. 168~169

- ⑧ 西 成彦 「日本語文学の越境的な読み方に向けて」『立命館言語文化研究』22-4、査読あり、P. 179~186
- ⑨ 土屋 忍 「松雄邦之助—長期滞在者の異文化理解」『ライブラリー—日本人の異文化体験』第7巻所収、査読なし、P.793~841

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 8 件)

2008 年度(計 3 件)

- ① 木村一信 『不安に生きる文学誌』双文社出版、全 295 頁
- ② 曾根博義・サトウタツヤ 『『精神分析』戦前編』不二出版、全 121 頁
- ③ 中川成美 『モダニテイの想像力』新曜社、全 387 頁

2009 年度(計 3 件)

- ① 木村一信・崔在 Chol 『韓流百年の日本語文学』人文書院、全 334 頁
- ② 竹松良明・大橋毅彦・趙夢雲・山崎真紀子・木田隆文・松本陽子 『武田泰淳「上海の螢」注釈』双文社出版、全 260 頁
- ③ 池内輝雄 『近代文学の領域』蒼丘書林、全 358 頁

2010 年度(計 2 件)

- ① 西 成彦 『うつろ舟—ブラジル日本人作家 松井太郎小説選』松籟社、全 314 頁
- ② 土屋 忍 『ライブラリー—日本人の異文化体験』第7巻、柏書房、全 841 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 一信 (KIMURA KAZUAKI)
プール学院大学・国際文化学部・教授
研究者番号：20105365

(2) 研究分担者

池内 輝雄 (IKEUCHI TERUO)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：20075013

神谷 忠孝 (KAMIYA TADATAKA)
北海道文教大学・外国語学部・教授
研究者番号：10055171

竹松 良明 (TAKEMATSU YOSHIAKI)
大阪学院短期大学・経営実務科・教授
研究者番号：30249396

奥出 健 (OKUDE KEN)
湘南短期大学・商経学部・教授
研究者番号：30110076

土屋 忍 (TSUCHIYA SHINOBU)
武蔵野大学・文学部・准教授
研究者番号：20302200

西 成彦 (NISHI MASAHIKO)
立命館大学・先端学術総合研究科・教授
研究者番号：40172621

中川 成美 (NAKAGAWA SHIGEMI)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：70198034

曾根 博義 (SONE HIROYOSHI)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：90120493
(平成 20・21 年度)

(3) 連携研究者

()

研究者番号：